危機対応は暴力予防計画の中の重要な要素である。少なくとも危機管理計画の中には危機発生中に介入を行い、悲劇の結末に対応するためのコンティンジェンシープランを含める必要がある。危機の発生中になすべきことを知っている学校内対応チームを持つことは危機管理計画の重要な要素となる。ポイントは次のとおりである。

①セキュリティ要員でない学校職員の訓練内容を向上することは危機対応能力を改善する一つの手段である。現在の所、学校安全計画の中で学校職員及びボランティアに対する基礎的な暴力予防カリキュラム及び暴力予防訓練の実施は求められていないが、将来求められるようになるかもしれない。
②他の問題点は危機状況に向けての訓練である。一つの選択枝として、生徒が学内にいないときに仮想危機訓練を演習することである。トラビス・バークレー統合学区では，夏休み中にこのような練習を実行した。
③立法府は各学校の校長に，毎学年の始めに学校職員、法執行官，及び保健職員からなるチームを任命して危機対応チームとして活動することを求めるかもしれない。
④学区警察官または都市警察官は、危機対応チームが組織単位として危機（暴力事件、自殺あるいは自然災害）にどのように対応するかを訓練するかもしれない。学校職員、警察、病院、精神健康医、両親、及び各種選出公務員の間の情報システム構築は危機対応チームを支援することになるであろう。

### 1-3　兆候の評価

暴力－－それが学校、家庭、職場、あるいは路上のどこで発生したものであっても－－は複雑な原因と複雑な結果を持つ複雑な問題である。暴力の原因を解明できる容易な方法はなく、暴力行為の実行者を予言できる簡単な公式もない。しかしながら、暴力行為は漸進的に進行するものであり、脅威は暴力へ進むプロセスの一段階であること、そして何を見つけるべきかわれわれが知っていれば、そのプロセスにおいて観察可能な暴力実行の兆候があるのも事実である。
全体として、米国の学校暴力のレベルは減少傾向にあり、上昇傾向にはない。しかし最近発生した校内発砲事件とそれに引き続く他の暴力事件による衝撃と恐怖は、学校暴力の脅威に関する一般の強い懸念を引き起こした。この環境下で学校としては、脅威は全て異なるという理解をもって、あらゆる脅威に対して迅速に、責任を持って、公平に、敏感に対応することが極めて重要である。

#### 1-3-1　初期の注意信号とは「安」

自分や他人に対して暴力的になった子供の大部分は、心理学的に言って自分は社会から拒否されており犠牲者だと感じている。多くの場合、幼い時期に攻撃的行動を示した子供は、援助の手を受けなかった場合、より深刻な攻撃または暴力に向かって更に成長する。しかし子供が大人と積極的且つ意義のある関係を持つようになると、－－それが家庭内、学校

内あるいはコミュニティの中であっても－－暴力の可能性は著しく減少するといわれている。これらの注意信号はどれ一つといえども単独では攻撃性または暴力性の予言とはならない。その上、初期の注意信号を子供に対するチェックリストとして使用することは、不適切であるばかりか有害ですらある。初期の注意信号は、支援を必要としているかもしれない子供を認識するための手助けとしてのみ提供されるものである。学校コミュニティは、学校スタッフや生徒がこれら初期の注意信号を利用するのは認識と専門家への相談の目的に限られることを確実に守らねばならない。訓練された専門家だけが子供の両親または保護者との相談の中で診断することができる。

### 1-3-2　初期の注意信号を認識するための５原則「安」

教育者や家族が初期段階の注意信号の認識能力を向上するには、子供たちや青少年との間に、親密で気遣いと支援のある関係を樹立し、子供たちのニーズ、感情、態度及び行動パターンを知ることができるほど仲良くならねばならない。教育者と両親は一緒になって子供たちの行動パターンや行動の突然の変化を調べるために学校記録を見直す必要がある。残念なことだが、初期段階の注意信号が誤って解釈されるという真の危険が存在する。教育者も両親も－－時には生徒も－－注意信号をよりよく理解するための重要な原則を利用して、初期段階の注意信号を誤って解釈しないよう努める必要がある。その原則とは次の通りである。

#### 原則①　害を与えないこと

初期の注意信号を利用して問題を抱えている生徒を認識することに関連する若干のリスクがある。第一に最も重要なことは、この原則を使用する意図は子供にできるだけ早く援助の手を差し延べることにある。初期の注意信号は子供を分離し、排除し処罰するための原則として使用してはいけない。同時に注意信号により子供を正式に認識し、ラベルを貼り、あるいはある型にはめ込むためのチェックリストとして使用してもいけない。連邦法に定める正式の障害認識チェックリストを使用するには、有資格専門家が個人ごとに評価することが必要である。更に、初期の注意信号に基づいて外部機関に相談を求める場合、全ての相談は機密扱いとし両親の同意を必要とする。（但し児童虐待及び保護怠慢を除く。）

#### 原則②　一連の状況の中で暴力と攻撃を理解する

暴力は状況に関連して発生する。感情の表現としての暴力的・攻撃的行動には多くの先行的要素があったかもしれない。その要素は学校内に、家庭内に、あるいは社会環境の中に存在していたのかもしれない。事実、攻撃や暴力の危険性のある子供たちは、環境や状況が変わればその危険性が爆発することがある。一部の子供たちはストレスが非常に強くなったり、感情の処理が下手であったり、あるいは暴力を使って反抗することを覚えると、行動で感情を表現するようになる。

**原則③　型にはまってはいけない**

紋切り型になることは、学校コミュニティが子供を認識し支援を与える能力に干渉するばかりか、時には害を及ぼすこともある。誤りを犯しやすいキュー（合図）をよく知っておく必要がある。それらは民族、社会・経済的地位、知力・学力的能力、あるいは身体上の外見などである。

**原則④　注意信号を成長過程の中で判断する**

成長過程の中で異なる段階にある子供と青少年では、社会的能力および感情的能力はそれぞれ異なる。小学校、中学校、高等学校で、子供たちはそれぞれ別のニーズを表明するだろう。問題点は、成長段階からみて何が典型的な行動であるのかをよく知り、子供たちの行動を誤って解釈しないことである。

**原則⑤　一般に子供は複数の注意信号を出すことを理解する**

問題を抱える子供たちが複数の注意信号を表すのは普通のことである。調査研究によると、問題を持つ子供や攻撃に及ぶ危険性のある子供の多くは、一つ以上の注意信号を繰り返し発し、時間の経過とともに頻度が増加する。従って、子供が発する１個の注意信号や言葉や行動だけでは過剰反応しないことである。

### 1-3-3　子供に初期の注意信号を認識したとき、どうすればよいのか「安」

**①関心を持つ**

メッセージは明瞭である。子供に注意信号を見つけたとき、関心を持ってやるのがよい。その関心に向けて何かをしてやれば更によい。ある生徒の注意信号に気づいたときにはその生徒に関心を持つよう、学校職員、家庭、生徒に奨励している学校コミュニティ（その学校コミュニティでは問題児童が認識されたときその子供に必要な支援を与える手順が確立されている）では、学級混乱、いじめ、喧嘩、その他の攻撃的行為が減少した例が多いようだ。

学校スタッフが問題生徒に対する支援を求めるとき、また生徒が仲間あるいは他の生徒を心配しているとき、あるいは両親が子供の考え方や習慣に懸念を示すときは、その生徒たちには必要な支援が提供されなければならない。積極的に情報を共有することによって、学校コミュニティは迅速で効果的な対応を提供することができる。

**②問題を認識し解決に向けてのプロセス評価を行う**

学校は、生徒及び教職員に対する潜在的に危険な環境、及び学校コミュニティ・メンバーが脅かされおどされていると感じている状況を客観的に検証し公開しなければならない。安全な学校は継続的に問題を認識し解決手段に関する情報を収集し、それらの進行状況を評価する。更に効果を上げている学校は、生徒、過程、及びコミュニティ全般とこれらの情報を共有している。

### 1-3-4　初期の注意信号の種類「安」

以下に列記する初期の注意信号には条件がある。すなわち、各項目の重要性は異なり、また各項目は重要性の順序で配列されているわけではない。

#### ①社会からの逃避（Social Withdrawal）

ある状況の下では、社会から徐々に逃避し最終的には社会との接触から完全に逃避することが問題を抱えている子供の重要な指標となる。逃避行為は抑鬱（Depression）、拒絶（Rejection）、迫害（Persecution）、無価値（Unworthiness）、自信欠如（Lack of Confidence）の感情から生ずることがしばしばである。

#### ②過剰な隔離感と孤独感

隔離され友人がいないように見受けられる子供たちの大部分は暴力的ではない。こうした感情は時として、問題を抱えているか社会から逃避している青少年、あるいは社会参画という成長段階を阻害するような内的な問題を抱えている青少年の特質であることがある。しかしながら別の調査研究によると、隔絶感や友人のないことがある場合には攻撃的、暴力的に行動する子供たちに関係していることもある。

#### ③過剰な拒絶感

成長の過程において、また青少年としての形成期において、多くの青少年が感情的に苦痛な拒絶（Rejection）を経験する。問題を抱える子供たちは精神的に健康な仲間から隔離される。そのような子供の拒絶感に対する反応は多くの背景的要素によって異なる。支援が得られない場合、子供たちは自分たちの感情的苦悩を否定的方法－－暴力も含む－－で表現する。攻撃的な子供が攻撃的でない仲間から拒絶されると、彼らは攻撃的な子供を求めて交わり、結果として攻撃的な傾向がより強くなることがある。

#### ④暴力の犠牲者であること

学校内、家庭内、あるいは社会の中で、身体的虐待及び性的虐待を含む暴力の犠牲者となった子供たちは時として彼ら自身が、自分または他人に対して暴力を及ぼす危険性を持つことがある。

#### ⑤いじめられ迫害された感情

家庭や学校でいつもいびられ、からかわれ、いじめられ、呼び出され、侮辱された子供たちは、最初の間は逃避するかもしれない。これらの被害感情に取り組むための適切な支援が与えられないとき、一部の子供たちはその感情を不適切な方法で－－攻撃または暴力の可能性を含め－－ガス抜きするかもしれない。

#### ⑥学校への低関心と成績不良

学校成績が不良の原因は様々である。重要なことは、成績が突然大きく変化したのか、あるいは成績不良が慢性的な状態となりそれが生徒の学習能力を制限していないかどうかを

検討することである。ある状況下では成績の悪い生徒が挫折感、無価値感、屈辱感を受けて、感情をあらわにしたり攻撃的行為に出ることがある。成績不良の感情的及び知的理由を検討して、問題の本質が何なのかを決めることが重要である。

**⑦文書または絵による暴力の表現**

青少年は自分たちの考え、感情、欲望、あるいは意図を絵、物語、その他の表現形式で表す。子供の多くは暴力的なテーマを持った作品を作るが、背景事情を考慮すると多くの場合それは無害である。しかし文書や絵で繰り返し特定の人物（家族の一員、仲間、あるいは他の大人）への暴力が表明されるときは、その子供には問題があり暴力の可能性があることへの注意信号かもしれない。このような注意信号を誤診する真の危険性があるので、そのような注意信号の真の意味を決めるには、学校心理学者、カウンセラー、その他の精神衛生医の指導を得る必要がある。

**⑧抑えられない怒り**

誰しも怒る。怒りは自然の感情である。だが、小さなことに何度も激しく怒ることは、自己または他人への暴力の可能性を示す注意信号かもしれない。

**⑨規律問題の記録**

家庭または学校内での慢性的な規律上の問題行動は、底流にある感情的なニーズが充足されていないことを示唆しているかもしれない。この満たされないニーズが感情をあらわにしたり攻撃的な行動で表明されるのかもしれない。これらの問題が子供に、規準や規律を犯し、権威に反抗し、学校から離れ、他の子供や大人たちと暴力行動に加わる舞台を提供しているのかもしれない。

**⑩過去の暴力と攻撃的行動の記録**

支援とカウンセリングを受けない限り、攻撃的・暴力的行動の記録を持つ青少年はそれらの行動を繰り返す可能性がある。攻撃的・暴力的行動は他人に向けられたり、動物に対する残虐行為となったり、放火行為ともなりうる。反社会的行動の初期パターンをしばしば色々の局面で示した青少年は、将来とも攻撃的かつ反社会的な行動に及ぶ危険性が特に高い。同様にいじめや攻撃、反抗などの公然とした行動に係わる青少年、並びに窃盗、器物破壊、虚偽、欺瞞、放火など非公然の行動に係わる青少年も、より深刻で攻撃的な行動に及ぶ危険性がある。例えば少年期（12 歳以前）に薬物乱用と攻撃行動に関わった子供たちは、今少し年長になってからこのような行動に関わった子供たちよりも、将来に暴力的行動を起こすことが多い。このような初期の注意信号を持つ子供たちについては、教師と行動科学専門家が両親の観察と洞察を考慮に加えて、子供の記録を見直すことが重要である。

**⑪差別と偏見的な態度**

子供たちには皆好き嫌いがある。しかし、人種、民族、宗教、言語、性別、能力、身体的外見に基づく他人に対する激しい偏見は、他の要素と結びついて、自分の見方と違うと思

われる人物に対する暴力に発展するかもしれない。憎悪グループの一員になることや、身体障害者あるいは健康に問題のある人を犠牲者にしたいという気持ちを持つことは、初期の注意信号として取り扱うべきである。

**⑫薬物とアルコール**

薬物服用とアルコール飲用は非健康的な行動であるということ以外に、これらの飲用は自己管理能力を減退し、子供たちを加害者とし被害者としてまたはその両方として、暴力の前にさらす。

**⑬非行集団との関係**

反社会的な価値観と行動－－例えば強請、脅威、他の生徒に対する暴力行為など－－を売りものとする非行集団は生徒の間に恐怖と緊張を引き起こす。非行集団に影響された（張り合ったり真似したり、それに参加する）青少年は、ある種の状況の下でこれらの価値観を取り入れ、暴力的・攻撃的行動に出るかもしれない。非行集団がらみの暴力やなわばり争いは薬物服用と関係することがあり、しばしば傷害・殺人事件の結末となる。

**⑭火器への接近、火器の不法所持と使用**

火器を不法所持しまたは火器に接近できる青少年には暴力の危険性が大きい。調査研究によると、これらの青少年は暴力の犠牲者になる可能性も高いという。家庭では、子供が火器や他の武器に接近することを監視し、制限し、監督することで子供の火器への不法接近と不法所持を減らすことができる。攻撃性、衝動性、その他の精神的問題の記録のある子供には火器や他の武器への接近を許すべきでない。

**⑮深刻な暴力の脅威**

根拠のない脅威は挫折感（フラストレーション）に対する普通の反応である。しかし、詳細かつ具体的な暴力を予告する脅威は、青少年が自身または他人に対して危険な行動を実行するかもしれないことを示す信頼性の高い指標である。全米各地で発生した最近の事件は、自身または他人に対する暴力行為の脅威があった場合はそれを極めて深刻に受け止めるべきことを明確に示している。これらの脅威の実体を理解し、その実行前に暴力を予防するための必要な処置をとらねばならない。

### 1-3-5　切迫した注意信号の認識と対応「安」

初期の注意信号とは異なり切迫した注意信号は「ある生徒が自身または他人にとって危険の可能性のある行動を間もなく実行する」という信号である。切迫した注意信号に対しては迅速な対応が必要である。

単一の注意信号だけでは危険行為が発生すると予言できない。そうではなく、切迫した注意信号とは、仲間、学校職員その他の人物に向けられた、公然とした深刻で敵意のある一連の行動または脅威として現れるのが通常である。また切迫した注意信号は、普通、複数